

性・蛍光特性・堅ロウ度特性ならびに染色操作の難易などを総合して、各繊維に夫々最も適した染料の選定に役立てることを目的とする。

2. 塩基性染料系の Leucophor WS, 酸性染料系の Tinopal WG, 分散染料系の Uvitex ERN を用いて、羊毛・アセテート・ナイロン・テトロン等に応用し、染色温度・浴比・時間等の条件を検討して、染着量・蛍光強度曲線を求める。これらの染色試料のうち、なるべく染着量の近似した各染料による染色サンプルを用いて、日光及び洗たく堅ロウ度試験を行なう。また、洗たく試験による蛍光増感性の有無を各繊維について検討する。

3. 以上の結果から 染色特性・染色操作・蛍光特性・堅ロウ度特性を総合して各繊維別に適応する染料の系を選定すると次のようになる。

羊毛：塩基性 酸性染料で染色できるが直接染料を酸性浴で染色したものよりよい結果は得られない。

アセテート：塩基性染料によってよい染色ができる。

ナイロン：酸性染料により染色できるが日光に弱い。

テトロン：分散性染料を用い、95°C以上で染色すれば日光、洗濯ともに堅牢な染布が得られるが対繊維濃度10%を用いても濃度消光現象があらわれない。

34. 羊毛及び合成繊維用蛍光増白染料の性能の比較研究

お茶の水女子大 林 雅子
馬場 妙子

1. 羊毛 合成繊維用の蛍光増白染料のうち塩基性・酸性・分散性の各染料を用いて、羊毛・アセテート・ナイロン・テトロン等の蛍光増白処理を行ない、染色特